

令和4年度 上田市青少年善行表彰 被表彰者及び内容

	団体・個人（敬称略）	善行の内容
1	第五中学校3学年	令和4年度の当初に、新型コロナウイルス感染症が拡大し、3学年5学級のうち2学級で閉鎖の対応がとられた。同じ学年の仲間として、学校に「安心して戻ってきてほしい」という気持ちを表すために、通学している生徒で3学年全員分のシトラスリボンを作成した。 コロナ禍が始まって以降、感染した生徒に対して心無い差別が行われないように、生徒たちで進めてきた取り組みである。差別、偏見をなくし、相手を思いやる気持ちを育む活動である。
2	奈良尾育成会中学生	奈良尾育成会では、毎年、中学生がオバケ役となり小学生の肝を冷やす肝試しを実施している。コロナ禍で2年間、肝試しが中止となり、今年は、今の中学3年生が、肝を冷やされてきたその面白さを後輩たちに伝える最後の機会となる。自らリーダーとなって事前に作戦会議を決行し当日は凝った演出のオバケが集まり、全力で小学生を怖がらせて楽しませた。 コロナ禍で地域行事がとだえがちな中、楽しい思い出を次世代へ伝えるために子どもたち自らが実践した活動である。
3	藤田 にこ (さくら国際高等学校3年)	藤田さんは、地元愛が非常に強く、上田市の魅力を発信する活動に自ら取り組んでいる。個人のTwitterでは、毎日のように市内のおすすめスポットを発信し、寄付を募り花火をあげるプロジェクトの記事も発信している。花火プロジェクトのイベントではスタッフを務め、おすすめスポットの記事は高校のリーフレットに掲載している。また、「まちなかキャンパスうえだ」の広報活動にも携わっており、多方面で地域活動に参加している。 高校生の視点で地域の良さを発見し、様々な媒体で魅力を発信する活動は、ふるさとを愛する心を育む実践である。

	団体・個人	善行の内容
4	平林 優佳 (浦里小学校6年)	平林さんは、ピアノレッスンに行く途中、雨に打たれながら1人で歩いている2～3歳くらいの女の子の姿を見かけた。車の通りがある道路だったので、女の子のもとへ歩み寄って声をかけた。お母さんの居場所、家の場所などを聞いたところ、そこから数十メートル先の家の子どもだと分かった。一人で家から出てきてしまった様子だった。家の玄関まで付き添って送り届け、自宅に戻ることができた。 迷子の女の子に声をかけ家まで送り届けたことは、優しさと勇気を兼ね備えた行動である。
5	フードバンク in Ueda H.S. (H. S. は、ハイスクールの略)	貧困に関心を抱いた1人の生徒が、生活に困っている方々を応援するため、自分で何かできないかを考え、フードバンク活動を立ち上げた。SNSで呼びかけ、仲間が3人増え、令和2年11月から令和3年3月までに、校内で初めて品物を集めて市社会福祉協議会のフードバンクに寄付をした。その後も活動を継続し、まるこ福祉会にも寄付をした。また、フードバンクをきっかけに、こども食堂の活動にも参加している。 自ら社会の課題に気づき、仲間とつながり、解決のため行動している実践である。
6	上田千曲高等学校 ボランティア班	平成9年からカンボジア支援として、募金活動、物品販売など井戸の設置資金を集めるための活動を行い、現在まで26基の井戸が現地に設置されている。こうした活動が認められ令和3年に内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。 また、地域福祉活動として、社会福祉施設でのボランティア、イベントのサポート、環境美化活動の実施、平和学習活動として学校内の戦争遺跡を地域の子ども達に案内し後世に史実を伝えていくなど、多岐にわたる地域への貢献活動を行っている。 地域とのつながりを大事にする身近なボランティア活動から国際的な支援活動まで、これまで幅広く継続して行ってきた活動は、他校への広がりが見られるなど地域の活性化に貢献している。